



岡山天文博物館

博物館通信

冬号2016年1月発行
Vol.58



3月9日(水)は少し欠ける太陽を見よう!

日食とは?

地球から見て太陽の前を月が通ることで、太陽が月にかくされる現象を日食といいます。太陽が月に全部かくされる現象を「皆既日食」といい(図1)、また、太陽が月よりもひとまわり大きく、月のまわりから太陽がはみ出して見える現象を「金環日食」といいます(図2)。



図1. 2009年7月22日の皆既日食
© 国立天文台

図2. 2012年5月21日の金環日食
© 国立天文台

3月9日は、太陽の一部分がかくれる**部分日食**を見ることができます(図3)。

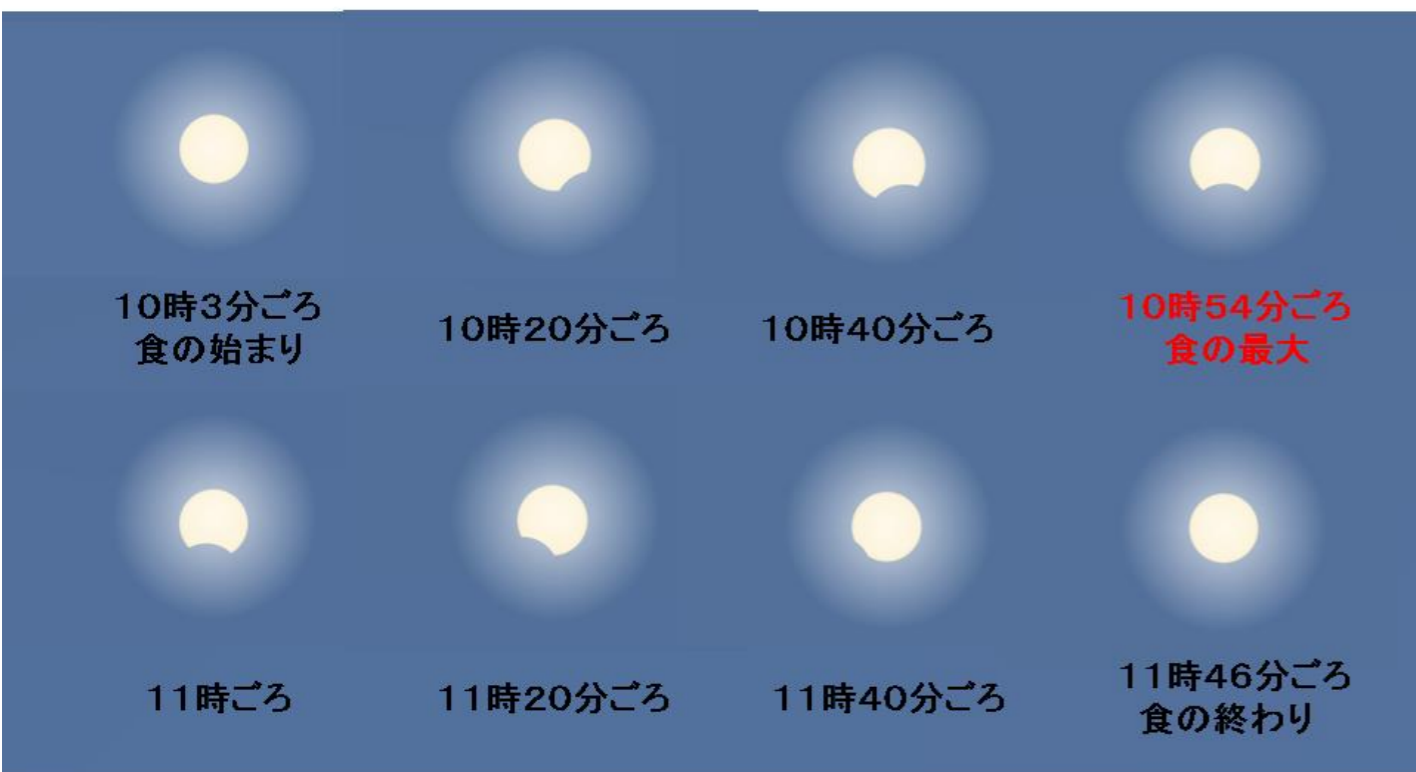


図3. 浅口市での部分日食の様子
© ステラナビゲーターVer.9にて作成

浅口市ではどう見える?

今回の部分日食では太陽の下の部分が少しだけ(全体の2割ほど)欠けます。浅口市では10時3分ごろから日食が始まります。太陽が最も大きく欠ける食の最大は10時54分ごろ、そして、11時46分ごろに太陽は元の姿に戻り、日食は終わります(図3)。



日食を観察するには?

絶対に太陽を直接見てはいけません! 光を弱めて太陽を安全に観察できる**太陽観察専用グラス(日食グラス)**等を使って見てください!!

京大3.8m望遠鏡ニュース③ 天体をとらえる大きな目 3

第3回目は、なぜ大きな鏡が必要か? お話しましょう。

主鏡が大きければ大きいほどより遠くの暗い天体を見ることができます。

そんな大きな鏡をつくるには、京大

3.8m望遠鏡の鏡製作に使われている

分割鏡方式(図4)の技術が必要不可欠! 1枚の巨大な鏡だと分厚くなり、重くなって変形しやすくなるうえ、持ち運びも大変だからです。

このプロジェクトでつちかわれた技術は将来、超大型30m~100m級望遠鏡の鏡をつくるうえでの基礎技術となることが期待されています。

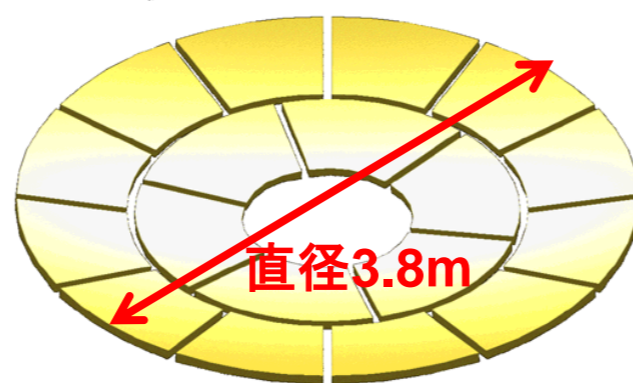


図4. 京大3.8m望遠鏡の主鏡
© 京都大学

岡山天文博物館

浅口市鴨方町本庄3037-5

TEL・FAX: 0865(44)2465



★
投映中
★

期間: 2016年3月6日(日)まで